

救命救急処置の演習

令和3年12月7日（火）、私たち2年生は、BLS（一次救命処置）インストラクターである長島愛生園の看護師の方々から、講義と演習を通して救命救急処置の実際を学びました。

准看護学校ではBLSについて学習し体験したことはありましたが、今回の学習を通して、さらに正しい知識・技術の重要性を痛感しました。急性の疾患や外傷により生命の危機に瀕している人（傷病者や患者）やその可能性のある人を目の前にして、落ち着いて、適切に対応していくことの難しさや大切さを学びました。また、焦っていれば、相手にわかりにくい声かけとなり、対応が遅れるため、相手にわかるよう適切な指示を出すことの重要性も実感しました。そのために大切なことは、周囲の人に協力を得ることや、チームで対応することであることも学ぶことができました。

続けてALS（二次救命処置）の実際や器具や医薬品を用いて、医療従事者がチームで対応していくことや、急変時や緊急時に備え、専門的な知識・技術の重要性を学ぶことができました。今回の講義、演習を体験し、日々の学習の積み重ねがいかに重要なことかを改めて自覚し、常に学習していく姿勢をこれからも大切にしていきたいと感じました。



【BLSの演習】
正しくできているか、自分に問いかけながら実施しています。

【ALSの演習】
4か月後の自分の姿を想像しながら、熱心にかつ必死で見学しています。

